

橈骨遠位端骨折に伴う尺骨茎状突起骨折の有無による治療成績の検討

1. 研究の対象

2013 年 11 月から 2018 年 2 月までに橈骨遠位端骨折に合併した尺骨茎状突起骨折に対して内固定を行わなかった症例を対象とする。

2. 研究目的・方法

橈骨遠位端骨折に合併した尺骨茎状突起骨折に対して内固定を行わなかった症例を対象とする。尺骨茎状突起骨折の有無により 2 群に分ける。本研究の目的は、尺骨茎状突起骨折の有無が整復位や手関節可動域 (ROM) へ影響する程度を明らかにすることである。予定症例数は 30 例とする。検討項目は関節可動域およびレントゲンパラメーター (RI, VT, UV) とする。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、関節可動域およびレントゲンパラメーター (RI, VT, UV) 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

京都中部総合医療センター 患者相談係

研究責任者:

京都中部総合医療センター リハビリテーション科 恩村 直人

-----以上